

自 己 評 価 表

学 校 名 愛媛県立大洲高等学校

学校番号 32

教育方針	国家社会の有為な形成者としての資質を養うために知性を高め、心身ともに健康で豊かな人間性と創造力を備えた人間を育成する。 生徒の興味・関心・能力に応じた進路実現を目指し、社会の変化に主体的に対応し、社会貢献できる人材を育成する。	重点目標	1 常に向上心を持たせ、自ら学ぶ態度を育てる。 2 優しい心と誠実な人生観を持った生徒を育てる。 3 知性を磨き、心身ともに健康で社会貢献のできる生徒を育てる。 4 創意をいかし、国際感覚の豊かな生徒を育てる。 5 読書や芸術に親しませ、豊かな感性を培う。 6 地域とともに歩む、活力のある魅力を持った学校をつくる。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	授業の充実	内容の精選に努め、生徒の主体性を生かした分かりやすい授業を実践する。	A	生徒が主体的に取り組める授業を各教科で工夫し、分かりやすい授業が実践できた。	協働学習への理解を深め、思考力や判断力、表現力を高める指導を工夫する。
	教科指導の研究	研究授業に積極的に参加し、教科指導の専門的技量を高め合うとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業、ICTを活用した授業の研究と実践に努める。	B	アクティブ・ラーニング推進研究指定校を利用し、グループワークやICT機器を積極的に取り入れた授業を実践することができた。	1年間のアクティブ・ラーニングに関する技術を更にスキルアップし、生徒の学力向上に寄与する。
	生徒の皆勤率向上	1か年皆勤率75%以上、3か年皆勤率60%以上を目指す。	C	不登校傾向の生徒がおり、1か年皆勤率、3か年皆勤率共に目標に届かなかった。	ホームルーム活動や総合的な探究の時間と連動し、進路実現のためにキャリア教育の充実を図る。
	ホームルーム活動・総合的な探究の時間(良知)の充実	ホームルーム活動・総合的な探究の時間(良知)の内容を精選し、生徒が協働して主体的に取り組めるよう創意工夫する。	B	年間計画に基づき適切に実施できた。各学年で工夫し、充実した取組が見られた。	実施内容の精選に努め、更に生徒が意欲的に取り組めるような新しい工夫する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進路指導の充実	就職・進学共に合格率100%を目指す。	C	就職は100%、進学は目標を大きく下回っている。	学年当初から志望校を明確に意識させる。
		国公立大学合格者80名以上、難関国立大学合格者数10名以上を目指す。 就職内定率100%を目指す。	C	就職内定率は100%である。 難関大合格者は2名(現役)で、国公立大学合格者は51名である。(前期まで)	難関大学を含めた国公立大学へ目を向けさせるとともに、個別指導も含めて長期的な展望を持って指導を実施していく。
		家庭学習時間は1・2年生は3時間以上、3年生は4時間以上を目標に、計画的に学習に取り組ませる。	C	各学年とも目標時間より1時間程度学習時間が少ない。	日常の学習への取組を習慣化させるとともに、サマーセミナー等を通して、家庭学習時間の確保に努めさせる。
生徒指導	生徒指導の充実	教職員の共通理解を図り、連携して指導にあたる。	B	一般的に学年団、生徒課など連携した指導ができた。	HPなどを利用し、保護者との連携を図る。
	規範意識の向上	基本的な生活習慣の確立を図り、特に、礼儀、授業態度、清掃、身だしなみ、情報モラルについて指導にあたる。	B	あいさつ、身だしなみなどおおむね良好である。落ち着いた雰囲気です学校生活が送れている。	教育全般を通して細やかな指導体制を整える。 スマホの取り扱いについて指導を徹底する。
	交通安全指導の充実	安全意識の高揚に努め、交通事故0を目指す。 自転車通学生のヘルメット着用率100%を目指す。	C	登下校中の交通事故が4件発生した。 自転車交通マナーアップに取り組み、成果が得られた。	自転車交通危険箇所マップなどを活用し、交通安全に取り組む。
	教育相談課の充実	欠席状況や各種調査等から不適応傾向生徒の早期発見に努め、関係者と連携協力して対応する。	C	ホームルーム担任を中心に、学年主任、養護教諭、スクールライフアドバイザーが協力して連携を図っているが、不登校傾向の生徒が昨年度より増えた。	生徒個々に応じて適切な対応ができるよう、学校全体で取り組む。さらに外部機関を活用した支援体制を整える。
特別活動	部活動の充実	いじめ、体罰等がない充実した部活動運営を行う。 部活動加入率95%を目指す。 全運動部の県総体出場を目指す。	B	ほとんどの部活動が活動計画に沿って熱心に活動できている。 部活動加入率は94.8%であった。	文武両道を実践するための活動体制を整える。 「学校の部活動に係わる活動方針」に則り、適切に部活動を実施する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特別活動	学校行事の充実	生徒、教職員が協力して取り組み、活力ある学校行事にする。 地域を元気づける藤樹祭にする。	A	生徒が主体となり、特色ある学校行事（藤樹祭）が実施できている。	創立120周年に向けて、より充実したものになるよう改善する。
安全管理	緊急時の対応	防災、安全意識の向上を図る。 緊急時の対応及び避難方法を全員に周知徹底する。	A	シェイクアウトえひめなど、年2回の防災避難訓練を実施することができた。	各機関との連携をさらに深めるとともに、緊急時に素早く対応できる実践力を養いたい。
	安全点検	毎月の安全点検を継続して行い、メンテナンスの徹底を図る。	C	毎月の安全点検を通じて、問題点の解消に努めた。	正確で継続的な点検をすることで問題点を把握しながら、事務課と連携を取り対応したい。
保健管理	健康教育の充実	生徒の健康状態を把握し、事後措置を迅速に行う。 生徒の健康に関する自己管理能力の向上を図る。	A	保健調査や健康診断によって生徒の健康状態を把握し、受診が必要な生徒については、個別指導によって事後措置を徹底することができた。 毎月の保健だよりや生徒保健委員会活動を通じて、健康についての意識向上を図った。	個別の保健指導を丁寧に行い、迅速に事後措置が完了できるよう努める、 生徒保健委員会活動をより充実させ、健康教育の啓発に努める。
組織運営	職員会議	計画的・効率的に運営し時間短縮を図る。	A	計画通りに実施できた。議題が少ない月は職員朝礼で代替するなど調整できた。	会議を円滑に進めるため、議題の精選に努める。各種会議も時間の設定を工夫していく。
	校内組織の充実	教職員間の意思疎通を深め、連携・協力体制を確立する。	C	校務分掌の構成は適切であるが46%と昨年度より大きく下がった。	校務分掌が効果的に機能するよう、各課・学年の話し合いの機会や、SLAや管理職等の面談を増やし、教職員間の共通理解を深めていく。
図書	朝読書の充実	学校全体で、朝読書に積極的に取り組む。	B	ほぼ全員の生徒が朝読書に取り組んでいた。読む本が適切でない生徒も見られた。	生徒が読む本を選びやすいように図書委員を通して図書館から情報を発信する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
図書	図書館の活用	各学年、ホームルーム、教科の連携を図りながら、図書館の利用を促進し、年間貸出し冊数一人当たり5冊以上を目指す。	C	1年生は5冊程度の貸出冊数だったが、学校全体では目標を達成できなかった。図書館の利用は昨年度より増加した。	図書館に蔵書されている本の情報を積極的に発信する。出張図書館として図書館以外で貸し出せるようにする。
研修	校内研修	校内研究授業や相互授業参観等を充実させ授業力向上を図る。	B	本年度も多くの授業でICTの活用やアクティブ・ラーニングの研究実践がみられた。相互授業参観は、積極的に行われていたが、相互参観期間だけでは難しい状況もみられた。	プロジェクトなど設備の充実を図り、ICTの活用等の教育実践ができる環境を整える。相互授業参観ができる期間を広げる。
	自己研修	校外研修への積極的な参加を促し、教科に関する指導力、授業力の向上を図る。	B	校外研修への積極的な参加がみられた。	研修の情報を的確に伝え、さらに多くの教職員の研修参加について啓発する。
	公開授業	P T A総会、ホームページ等で周知し、参観者の増加を図る。	B	P T A総会時の公開授業は参観者が多いが、公開授業週間の公開授業は参観者が少ない。	文書やホームページ等で周知を図るとともに、ホームルーム等で公開授業について、生徒にも周知徹底し、保護者へ確実に連絡が届くようにする。
教育目標	目標設定	本校の実情や生徒の実態に合った教育目標を設定する。	B	保護者は83%が教育目標は適切であると答えている。しかし、入学してくる生徒において学力的に下位層が増加しているのが心配される。	今後も生徒の能力・実態に合った、地域に根ざした教育目標を設定していかなければならない。
	生徒と保護者への周知	生徒や保護者に対して教育目標の周知を図る。	B	保護者に学校の運営方針は例年とほぼ同じで十分には伝わっていない。(約74%)	P T A月報、P T A総会、ホームページ等で周知徹底を図ることが必要であるが、その他、保護者や地域の方々と接する機会では、教職員一人一人が学校の取組を積極的にPRしていくことも必要である。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
情報提供	情報提供	ホームページやPTA月報の内容を充実させ、学校の情報を積極的に公開する。	A	ホームページは更新回数も多く、情報を適宜提供できている。保護者や地域の方からの評価も良い。	学校の最新の情報を早く提供できるように努めたい。地域から応援される学校づくりに努めたい。
	保護者との連携	生徒の学校生活がさらに充実したものになるよう、PTAとの連携を深める。	B	連携が十分取れているという保護者は65%であり、昨年度(61%)よりは少し増えた。	三者懇談や家庭訪問等の機会を確保し、十分な理解を得られるようにしていく。
人権・同和教育	いじめ対策	いじめの防止・いじめの早期発見を心掛け、いじめや差別のない明るい学校づくりを目指す。	B	「学校生活に関するアンケート」を年3回実施し、生徒の状況把握に努めた。	いじめ防止の意識について、生徒への啓発活動を多くして、保護者にも理解と協力をお願いする。
	人権・同和教育の充実	差別を無くする行動力を育てる学習内容を充実させ、保護者・地域との連携を強化する。	C	人権委員会の聞き取り学習や全国高校生集会で学んだことを人権集会で発表した。	「部落差別解消推進法」の主旨を年間計画の中に位置づけて、ホームルーム活動でも、その教材化に取り組む。
教育環境	教育環境の充実	美化活動を企画・実践し、安全で快適な教育環境づくりに努める。	B	毎日の清掃活動や清掃委員による美化活動を通じて、快適な校内の環境作りに努めた。日頃の清掃で対応できない場所については清掃委員が率先して清掃活動を行った。	学校評価や清掃委員による自主的な調査をもとに環境整備の計画立案と実践を行いたい。
	職場環境の充実	広報活動を通して、健康への関心を喚起するとともに、教職員の要望を吸い上げ、快適な環境づくりを進める。	C	健康相談だよりを活用し、健康への意識向上に努めた。衛生委員会などで職場環境の改善点を吸い上げ、対応した。	職場環境については、物理的・経済的に対応できない点があったが、次年度の全教職員の要望を取り入れながらできるだけ対応していきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
----	------	-------	----	---------	----------